

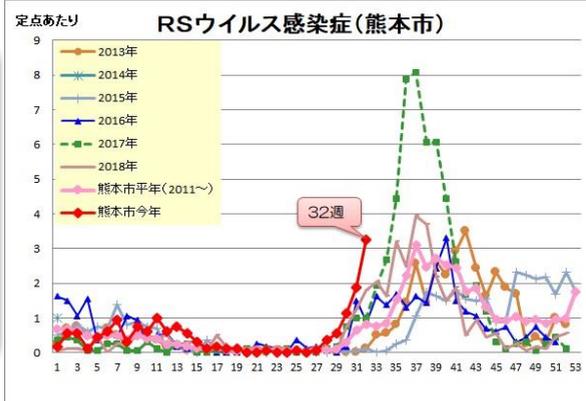


熊本市 感染症発生動向調査 速報



RSウイルス感染症が平年より早く流行しています!!

症状は鼻水、発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみませんが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いと言われています。生涯に何度も感染と発病を繰り返しますが、発症の中心は0～1歳児です。初めての感染では症状が重くなりやすいといわれており、特に乳児の早い時期（生後数週間～数ヶ月間）に初めてRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生的に保ち感染予防に努めましょう。



★海外へ渡航された方へ★

夏休み海外へ渡航された方もいらっしゃると思います。帰国後の発熱の場合、重大な感染症が生じている可能性があります。特に、マラリアやデング熱の流行地域から帰国し発熱がみられる場合には、必ず医療機関にかかってください。また、発展途上国を旅行した後、少なくとも6か月の間は、旅行関連の感染症が生じる可能性があることを覚えておきましょう。デング熱やリケッチア感染症による症状は、ほぼ帰国後3週間以内にみられますが、マラリアなどの寄生虫による感染症や、一部の細菌による感染症の症状は、数週間から数か月あるいは数年たってから生じることもあります。（病気によって潜伏期間が違います。）

帰国時や帰国後に、症状が出た場合は、**必ず受診前に医療機関へ電話で相談し指示に従ってください。**その際、①症状 ②渡航先 ③滞在期間 ④予防接種歴 ⑤動物との接触の有無 ⑥旅行中の行動 ⑦宿泊先の状況（虫除け対策が出来ていたか）などを伝えて下さい。また受診の際は感染が広がらないよう自家用車を利用するなど、**公共交通機関の利用を避けてください。**（厚生労働省検疫所FORTHホームページより引用）

「海外へ渡航される方へ気を付けてほしい感染症情報」



期 間		2019年 31週		2019年 32週	
		7/29～8/4		8/5～8/11（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	2	0.08
RSウイルス感染症		30	1.88	52	3.25
咽頭結膜熱(プール熱)		4	0.25	6	0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		17	1.06	21	1.31
感染性胃腸炎		35	2.19	45	2.81
水痘(みずぼうそう)		6	0.38	5	0.31
手足口病		64	4.00	33	2.06
伝染性紅斑(りんご病)		6	0.38	2	0.13
突発性発しん		10	0.63	15	0.94
ヘルパンギーナ		29	1.81	9	0.56
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		21	4.20	22	4.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		2	0.40	2	0.40
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	1	0.20
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00